

横浜市小学校社会科研究会

5 学年部会

# 研修会記録

第 2 号

令和2年 9月 30日

横浜市小学校教育研究会

会長 相澤 昭宏

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 引田 雄士

【提案日】

9月 9日 (水)

A部会

提案 岡崎 巨樹先生 (菊名小)

提案 金澤範明先生 (瀬戸ヶ谷小)

司会 引田 雄士先生 (中山小)

記録 板山 涼 先生 (中尾小)

B部会

提案 宮原美由紀先生 (末吉小)

提案 兼田和明先生 (付属横浜小)

司会 池田 翼 先生 (中山小)

記録 益満 順也先生 (三ツ沢小)

【会 場】

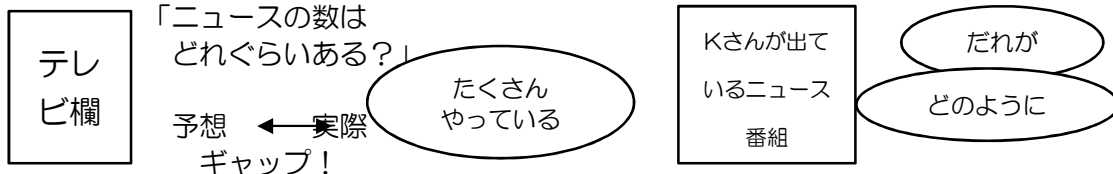
横浜市立平沼小学校

A部会

【提案1】 菊名小 岡崎巨樹 先生の実践提案

単元名「情報の“今”を伝える人々～Kさんの報道の現場を追って～」

視点① → 導入の資料提示について



★導入資料の視点を明確化

視点② → 本時での資料提示について



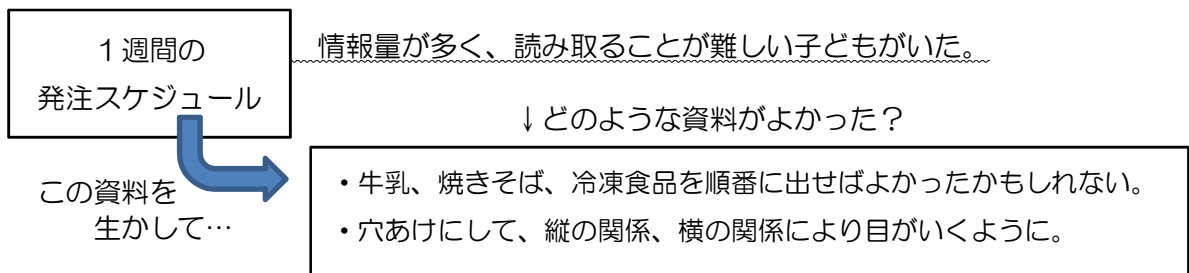
⇒資料を見る時間を大切にしたい。

⇒前時での資料提示を丁寧にやっておいたほうがよかった。

【提案1】 瀬戸ヶ谷小 金澤範明 先生の実践提案

単元名「発注支援システムを活用するSスーパーマーケット」

視点② → 本時での資料について



## B部会

### 【提案1】

末吉小 宮原美由紀 先生の実践提案

単元名「わたしたちの暮らしを支える水産業」

ラベルについて

日本では水産業が豊かであることから、ラベルの認識がまだまだ低い。資源を大切にしていくながら視点が広がるように、ラベルについて知っておいてもらいたい。

ラベルは世界基準なのか？

日本には日本の水産業の基準もある。

### 【協議】

身近な材からどのように持続可能な水産業に結び付ければよかったのか。

- ・MSCラベルを取り扱った授業

かつおを扱いたい → 焼津に行ってみよう → 水産 → MSC認証をあつかっている → お話を聞けないですか？ から始まった。

- ・体験活動はどうだったか

水産の方に質問 「両方（一本釣り、巻き網漁）やってる意味って何ですか？」と聞いたら、「どっちが楽だと思う？」と聞かれた。

このことを体験活動を通して、思いに迫ることができた。

→ 持続可能という視点を考えさせるには、生産者と消費者の生活面で考えるとよかったかもしれない。

将来の自分が困る。

単元後の児童の姿

栄養士に「どこの魚？」と聞くようになった。

農業の学習の時には具体物をもってきて自分で調べたいという思いが強くなった。

### 【提案2】

横浜国立大学付属横浜小学校 兼田 和明 先生

単元名「データが変える箱根の観光 ～観光地を経営せよ～」

### 【質問・協議】

授業以外でAIに関わったのか。

前時にAIに思いっきり触れさせた。AIの誤答もあったので、そこを見取り、どこで授業に活用するのか考えていた。

→ 子どもたちがAIを擁護するのが面白い。その理由は、AIを作ったのはHさんだからという思いが子どもたちにはあったのだろう。

AIの万能感を覆す引き出しをもっていたのか

誤答の子や資料を用意していた。

AIは並び替えるだけで、HさんがAIの判定基準をつくっているということを意識させた。

文責 板山 涼 (中尾小学校)

益満 順也 (三ツ沢小学校)